

自彊前進

題字 西村直子

NO. 27 令和4年11月22日(火)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

音楽のつどい成功裏に終わる

本日は音楽のつどいにお越しいただきありがとうございます。今年度は新しい試みが多かった年でした。例年より早い実行委員の立ち上げ、自由曲の追加、賞の導入——これらのことを実現するために、何度も全校のみなさんの協力をいただきました。本当にありがとうございました。

何回も意見の交換を行っていく中で、時には鋭い意見をもらい、音楽のつどいをより充実したものにすることができました。

今年度の全校で創り上げた音楽のつどい——スローガンはフォルティッシモ 360 の音符と1つの旋律でした。このスローガンの意味は、まずフォルテという音楽記号があり、その記号には強くという意味があります。このフォルティッシモはフォルテより強く、その上のフォルティッシモよりも強いという意味です。これは、今年度の勢いのある姿や一つの行事に対して真剣に考えて全校で取り組んだことをよく表していると思います。

全校の皆さんには今まで保ってきたこの勢いをこれからのスタート地点でもあります。今までの伝統を守りながら、新しい時代に合わせた価値を創造することに意味があると思います。合唱という附属中学校の伝統と自分たちの良さを混ぜ合わせることの難しさを皆さんは感じたとともに、活動を進めるなかで各々の努力とクラスや学年の心が一つになり、音楽になったとき合唱の楽しさや喜びが生まれたと思います。

音楽は気持ちの差が表れやすいテーマですが、何か一つになったときに体の芯から震えるような体験をすることができます。休み時間などを使って練習を重ね、気持ちを高めてきた皆さんだからこそ、今日この場で感じた思いがあったはずです。

練習は追求であり、本番を楽しむための準備です。今日は精一杯楽しむことができましたか？

それぞれが曲を聴いて感じたことは違うと思いますが、今日の音楽が皆さんの心に何かを生んでいるのではないのでしょうか。他のクラスの歌のフレーズや、印象的なメロディそれらがあなたのこれからの寄り添う。そんな小さな喜びを感じることを忘れないでほしいです。

音楽が皆さんの心に響き続けることを願ひまして閉会の挨拶とさせていただきます。

第43回音楽のつどい実行委員長 高橋菜々子。

実行委員長 高橋菜々子さんの閉会の挨拶です。各クラス、学年、音楽クラブの合唱の余韻が残る中、見事にこの行事の価値を言葉にしてくれました。

附属中学校には4つの大きな行事があります。ときわ体育祭、すなやま完歩大会、演劇発表会とこの音楽のつどいです。この順序には大きな意味があります。多くの日常活動や行事的活動を通して、互いにぶつかり合ったり、分かり合ったりしてきた各学級、学年のストーリーがあるからこそ、言葉に意味を込められるのです。

高橋菜々子さんの言葉通り、初めての音楽のつどいを経験した1年生はもちろんのこと、クラス替えをして新しいメンバーと最高学年への覚悟を固めた2年生にとってはある意味スタートだったのかもしれませんが。圧倒的な一体感で会場のすべての視線をくぎ付けにした3年生にとってはゴールと言えるでしょう。1、2年生に強烈な印象を残し、憧れを抱かせてくれた3年生には心より感謝しています。体の芯から震えました！改めて附中生のすごさを実感した1日でした！

